

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月2日

[評価実施概要]

事業所番号	270301393
法人名	有限会社グループホームむつ湊苑
事業所名	グループホームむつ湊苑
所在地 (電話番号)	〒031-0812 青森県八戸市湊町字上中道1-11 (電 話) 0178-33-6666

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 19年 11月 27日	評価確定日	平成 20年 2月 2日

[情報提供票より] (平成 19年 10月 27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 10月 1日				
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計		18	人
職員数	15 人	常勤	15人, 非常勤	0人, 常勤換算	15人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3 階建ての 2 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	5,000~冬季8,000 円
敷 金	有 (円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日当たり 900円		

(4) 利用者の概要 (10月 27日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	7 名	要介護2	6 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.6 歳	最低 70 歳	最高 92 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	シルバー病院・きむらクリニック・村上歯科医院
---------	------------------------

[外部評価で確認されたこの事業所の特徴]

朝市の活気が伝わってくる場所にあり、積極的に外出を行い地域に溶け込んでいこうとする姿勢がある。地域の行事への参加も多くなってきており、関係作りに広がりが見られ入居者の方々も様々な人たちと交流ができ、いきいきとしている様子がうかがえる。

[重点項目への取り組み状況]

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 急変時対応マニュアルを毎月確認し、心肺蘇生法についても内部研修が行われている。内部の研修は年間計画を作成し、外部研修については全職員に講義内容を連絡し参加を募り、参加できる体制作りをしている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価を職員全員で取り組んでいる。勉強会でそれぞれの意見を出し合い外部評価以外の項目についても日ごろのケア内容を含め見直しができる機会としている。結果についても検討し、改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 地域の行事予定を把握し、外出の場所や機会につなげている。職員から「家族とのかかわりを増やしたい」、「担当として家族と話をしながら意見の交換をしたい」という意見があり、家族と担当者が話す機会を作り現場がほしい情報を直接家族に聞くことができたようになった。面会のときなども関係が円滑になるよう取り組みがされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11) 家族への連絡時間に配慮し、連絡が家族にとって不快なものにならないようにしている。その時々家族の反応から直接意見として表面化しないものでも聞き取ろうと積極的に家族とかかわろうとしている。家族の依頼にはできる限り取り組み対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 積極的に地域に溶け込もうと町内会へ加入し、グループホームの存在を広めようと広報等を利用した取り組みが見られる。これからも地域の行事や外出時のかかわりを深め、関係作りをして地域との連携を高めようとしている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者一人ひとりで異なる生きがい、充実感への取り組みを重視し、外出をきっかけに地域との交流を図ろうとしている。さらに職員間での検討が行われている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内に理念を掲示し、職員で唱和する機会を設け、共有を図っている。また介護計画作成時にも理念を念頭に置きながら、利用者個人への具体的なアプローチとして検討もされている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会へ加入され、地域行事への参加は積極的になされている。また地域に対し、広報等を配布するなど、グループホームの存在と入居者について理解が深められるよう、取り組んでいる。	○	グループホーム側からの地域に対するアプローチは積極的に行われているが、地域の人が立ち寄ったり等馴染むまでの関係作りにはいたっていない為、今後は地域住民と双方向的な交流・取り組みについて期待したい。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員全員で取り組んでいる。勉強会でそれぞれの意見を出し合い外部評価以外の項目についても日ごろのケア内容を含め見直しができる機会としている。結果についても検討し、改善に取り組んでいる。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの現状と地域の現状について情報を交換しながら地域が持っている資源を探ろう、活かそうとしている姿勢がある。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	広報誌の配布や運営推進会議録の提出、不明な点は問い合わせを行い日常的に連携が取れている。家族、金銭の問題について相談し、解決に至ったケースもある。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、伝達研修も行っている。入居前に成年後見人制度を申請し、入居中に後見人が決定したケースにかかわり支援を行ったこともある。必要に応じて申請を検討して活用できる体制がある。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加して伝達し、職員に徹底しているが具体的な内容まで踏み込んでいる状態ではない。	○	虐待について予防、防止についての具体的な取り組みや発見時の対応、発見時の通報者の保護について苑の体制等を整え入居者が安心して笑顔で過ごせる場であり続けることを期待したい。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	定期通院等家族に対応を依頼すること、グループホームで対応できることを説明し、書面にて同意を得ている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書発送時にその月の様子を記入したものを同封している。状態が急激に変化した場合等は電話で連絡している。金銭の出納帳は面会時に報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見を伺ったり、面会時や状態連絡の電話の際など職員が家族とかかわるときに聴取している。また意見箱も職員等の行き来がない場所があり、投函しやすいようになっている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はユニット間のみで行われている。それでも入居者への影響が大きいことを管理者は理解している。異動となる職員には早めに内示し、担当が変更になる入居者には説明し、影響を最小限にとどめるようにしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職員の外部研修や他施設の見学、苑内での勉強会の内容を充実させたいと考え、実際に取り組んでいる。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八戸地区グループホーム協会の行事に積極的に参加し、情報交換や新しい発見、関係作りの場を作ろうと取り組みがされている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人にも見学に来てもらうようにしている。本人の負担を考慮して自宅を訪問して説明するケースが多い。入居の時に知っている職員がいることで溶け込みやすいように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	冠婚葬祭についての仕来りについて学ぶことが多く地域性もあり様々な気をつけるべき点を教えてもらえる。料理の仕方を近くで見てもらい教えてもらう等、入居者の手となり作ることによって支え合い共に喜びを共感できている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族から生活上の注意点をセンター方式を使用し聴取している。個人によって情報の量が異なるが入居後の生活状態を報告し「以前は…」と引き出す等工夫している。現在は担当介護職員が家族と直接話す機会を設定し、密な関係作りを目指している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメント票、センター方式を使用して、どれか一つの様式からの偏った情報にならないように留意しながら情報収集し、職員間で検討し介護計画を作成している。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月担当者がモニタリングを実施し、必要が生じた場合にはその都度計画を変更している。入退院の場合も行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の宿泊や緊急の通院に対応している。入居前に通っていた寺院への外出、入居前利用していたデイサービスの友人訪問、役所への書類等手続きの援助等要望に応じた対応が行われている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望やかかりつけ医との関係、医療の必要性によって意向を尊重し、対応している。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在は重度化している入居者はいないが、今後は現在入居している方々の将来を考え医療連携を含め検討中である。できるだけ家族、本人の希望に沿えるように受け入れしていきたい方針は全員で共有できている。重度化に向けて勉強会も開催されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	外部研修に参加後、苑内で伝達研修を行い、個人情報や言葉かけなどについて見直している。個人情報については入居前に説明し同意を得ている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴が食事の時間まで及んでも食事を取り置きして対応している。聴覚に障害のある入居者には手に指文字を書いたりすることで意思を確認し、その人のペースで生活が送れるようにしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを食べてほしいという思いから、その時に食べたい食事を提供する柔軟な態勢がある。片付けや準備の手伝いができる入居者には協力してもらいながら食事をしている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	回数は週2回を基本としているが、入浴予定日にこだわることなく曜日、時間をかえて本人のタイミングで入浴できるように工夫している。入居者は日中の入浴を希望しており、就寝時間が早い生活習慣のため夜間の入浴は行っていないが、希望があれば対応したい。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の生活歴を生かした料理のレシピを教えてもらい材料を購入し調理したり、味見をしてもらったりしている。裁縫作業や、元漁師の方には魚のさばき方を教えてもう等個人の生活歴が生かされている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体制として午後に外出できるような日課作りを行っている。前もってわかっている通院や外出の場合は職員配置を増員して対応する等日常的に外出できる状態になっている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加し苑内で伝達研修を行い身体拘束について学ぶ機会を作っている。居室にいる場合の訪室を適宜行う他、ナースコール対応を含めた対応を行い、本人の行動を制限しないよう配慮している。また身体拘束が必要な場合の対応についても検討されている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	リフォーム物件の3階建てで、急勾配な箇所もあるため安全を考え階段には常時施錠しているが、エレベーターはその都度スイッチを入れることで誰でも使用が可能である。外出できる環境を整えて施錠していることでのデメリットを最小限にしようとしている。階段以外への鍵をしない取り組みはこれまでも行っており、継続して対応等について検討している。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	火災、地震を想定した避難訓練を行っている。常時施錠している鍵は災害時にはオートロックが解除するようになっており、各階から非常階段で直接建物外に避難できるつくりになっている。運営推進会議で地域の方に説明しているが協力できる体制には至っていない。	○	地域住民からの協力が得られるよう運営推進会議での協力依頼や地域行事への参加を積極的に行い関係作りに期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食器を下げる時に摂取量をみておおよその摂取量の確認をしている。食事時の声かけも行われており摂取量、食事摂取状態の把握に努めている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルに予防、発生時の対応を含み作成され実行されている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光の取れた明るい苑内となっている。最近の行事や外出時の写真を掲示して季節感がでている。限られた空間の中にもくつろげるスペースの確保がされている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や本人の使用していたものが部屋の中にあり、飾りつける場所や物にも個性が感じられる。		

※  は、重点項目。